

救護第19班 4月19日～4月26日 保健師・前田 豊美



派遣の期間中、雨が多かったですね。着いた日は冷え込んで雪でしたが。現地では震災後に初めての雨だそうで、地震で被災していた旅館は雨漏りしたし、診療所のテントには水がたまり、くみ出し作業もしました。市の支所の方に土嚢の作り方も教わりました。

診療所では看護業務でしたが、地元の医師の先生が救護所を立ち上げておられて、私たちのところは受診者は10～20人と少なくなっていました。

巡回診療は診療所の近くで、1度参加しました。昼間なので高齢者の方しか居られず、生活の状態をお聞きしたり血圧測定をしました。食事はどうしても偏ってしまっていて、外はヘドロの乾いたほこりが舞うためあまり動けないとのことでしたので、健康体操の指導もしました。スタッフの中にもほこりで咽喉の痛みを訴える人がいて、私たちもマスクをつけていました。

地元の皆さんは「災害直後より今はよくなった」と割りと落ちついてらして、直後は思い出したくもなかったストレスのことを話し始める時期になっているのかなと思いました。派遣期間中に市の支所で小学校の入学式がありました。子どもたちが元気になっている様子に、被災者の心も和んでいるようでした。

